

なつかしいアシの風景や
湿原の貴重な植物との出会い

浮島ヶ原自然公園

Ukishimagahara Nature Park

ミニガイド 3月版

企画・制作：富士自然観察の会

かつては「浮島沼」と呼ばれた湿原で
そこに生きる貴重な動植物に出会えます
四季折々の動植物を観察してみませんか？

浮島ヶ原の湿原には、環境省レッドデー
タリストや静岡県版レッドデータブック
に記載されている貴重な植物が生育して
います。

そこで、この湿原の貴重な植物群落と自
然風景を保全し、身近な自然を観察できる
自然公園として浮島ヶ原自然公園が整備



サワトラノオ

されました。サワ
トラノオやヒキノ
カサ、ノウルシなど
の貴重な植物、カワ
セミやアオサギな
どの野鳥たち、チ
ョウトンボやアオ
モンイトンボなど
の昆虫など、様々
な動植物との出会
いを楽しめる自然
公園です。

3月の公園は黄色に染まります

この2種類の花で、地面が黄色に彩られます。(生育場所は裏面をご覧ください)

ヒキノカサ *Ranunculus ternatus* Thunb. (蛙の傘)

分類:キンポウゲ科キンポウゲ属 保全状況評価:絶滅危惧Ⅱ類(環境省)・絶滅危惧ⅠB類(静岡県)

水田の畦など、日当たりの良い湿原に生える多年草です。茎は高さ10cmから30cmで、花期は3月後半から4月にかけてです。

和名のヒキノカサは、「蛙(ヒキ)の傘」の意味で、カエルの住むような湿地に生え、茎や葉、花を傘状に四方に広がる様子からつけたものと言われています。分布は関東以西の本州・四国・九州ですが、静岡県では伊豆の一部と浮島ヶ原にしか分布しません。また、伊豆の産地はごく限られていて、浮島ヶ原ほど広い分布域ではありません。

最近の調査をみても、全国的に数を減らしている植物です。



似た花で、ケキツネノボタンも咲きます。(花期は、4月初旬です。)

ノウルシ *Euphorbia adenochlora* C.Morren et Decne. (野漆)

分類:トウダイグサ科トウダイグサ属 保全状況評価:準絶滅危惧(環境省)・絶滅危惧Ⅱ類(静岡県)

原野や、川岸の湿地に生える多年草です。3月から4月にかけて黄色い花をつけます。もっとも、花といっても植物形態学的にはポインセチアと同じように苞(ほう)と呼ばれる器官が黄色になって目立つもので、花びらや萼(がく)はありません。花はその中心の小さい部分だけです。茎や葉を切ると白い汁を出し、それが肌につくと人によってはかぶれることもあるため「野漆」の名がつけました。北海道・本州・四国(愛媛)・九州(福岡)に分布し、静岡県では浜松市と富士宮市の記録がありますが、多くは見られません。



乾燥した所では、仲間のトウダイグサも咲いています。見比べてみてください。

浮島ヶ原自然公園のWebサイト・ブログを開設しています。

<http://ukishimagahara.net/> または

 「@ukishimagahara」

Facebookもチェック 

